

児童・生徒の現状・課題

生徒の主体的な学習活動や行事、学校体制づくり等の実践を行うことで、学校生活が全ての生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになる。学校が生徒にとって魅力的な存在になることを目指し、「魅力ある授業」の視点で教育活動を実践していくことが課題である。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○生徒から「今日の授業はよく分かった」「できるようになった」「楽しかった」などの声が聞かれるような、魅力ある授業を実施する。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	目標値(8月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80.0	
②やってみたいことや挑戦したいことがある。	75.0	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	目標値(8月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、生徒が学び方を選択する場面を設定している。	80.0	
②生徒の興味・関心を高める工夫をしたり、生徒が取り組んだことに対して、受容・称賛・励まし等の価値付けを行ったりしている。	80.0	

具体的な手だて①

学ぶことに興味・関心をもつ授業内容の工夫や教材開発、生徒自身が考えを述べたり深めたりする機会を設定して、価値ある対話の共有や学びあう集団を形成し、知識・技能の定着を図る。(課題設定解決授業)

具体的な手だて②

すべての生徒が見通しをもって学習活動に取り組めるような学習活動を推進し、主体的に学ぶことができる生徒の育成をめざす。(学習のUD化)

具体的な手だて③

ICTを効果的に活用(教師・生徒)した学習活動を実践する。(意欲の喚起・学習の個別最適化)

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・研究のClassroomをつくり、日々の実践や意見、相談を日々書き込めるようにする。
- ・管理職の授業観察や研究授業の際、連絡ホワイトボードに書き、授業を互いに見合う機会を作る。

総括(8月)

全国学力学習状況調査の結果を見ても、本校の生徒は授業において、受け身的な授業が少なく、生徒自身に目標や目的があるなか学んでいる傾向が全国平均より高い。しかし、全国平均より3.3%下回っている回答として、ICT機器を活用した友達と協力しながら学習を進めるといふ力が弱い。そこで、日常の授業において生徒に選択させる場面を設定すること、そのために必要な手だてをICT機器などを活用するなどして教員がしっかり準備することを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)